

一、人間はどこから来てどこへ行くのか……

こんにちは、ようこそおいでくださいました。朝から大変な雨になりました。どうなる事かと思いましたが、雨にもかかわらず、皆さんが来てくださって、こうして話が出来ますことを心より感謝申し上げます。

それでは話を始めます。

私の話は、今日が初めての方もいらっしゃると思いますので、また最初の方から、話をしたいと思います。

ここにいらっしゃる方は、高橋信次先生という方のご本を、多少なりとも、お読みになられている方が多いと思います。

私の話は、その高橋先生の話を基礎にし、自分でそれを実行してみた そういう話をさせて戴きます。

人間は、何処から来て、何処へ行くのか こういう事を、皆さんも考えられた

事があると思います。

私も実は、こういう一つの疑問を若い時から持っていた訳です。そして折に触れて、

一、人間とは何だろっ？

一、自分の感情というのは何故あるんだろっか？

一、人と比べてみて、自分はこういう処が劣っている、こういう処が優れている、何故だろっ？

と、考えていた訳です。

ところが、特別そういうものを教わる事も無かったし、教えてくれる処も無かった。それに、結婚をしたから、生活する為に働かなければならない。それで、そういう疑問が、もうすっかり自分の考えから無くなっていった訳です。まあ、無くなるというより、生きる方に忙しかったんですね。

ところがそういう中でも、何か折に触れて、自分が夜寝る前とか、一寸暇な時間があつた時に、「人間って一体何だろっな？」と、そういう疑問は出て来ていた訳です。

一、人間は、何故生まれて来たのだろっか？

一、人間は、何故死ぬのだろうか？

一、死んだ後は、どうなってしまうのか、何かあるんじゃないのだろうか？

そう考えるようにもなった訳です。しかし、自分で追求しても分からない。

そのうちに、ふと、「霊の世界ってものは本当にあるのかな」と思った訳です。

それは何故かと言いますと、私は子供の時に、本で霊の写真を見た事があったんですね。それは、お化けの事を扱った本で、よく田舎でも街でもそうですが、人込みの中に、亡くなった筈の人が、写真の中に写っていたとか、そういうものを見た事を思い出した訳ですよ。

「あれは、本当にあるんだろうか？」と、また変な事を考えたんですね。

その時は三二〜三歳の頃で、実は、そればかり考えて三日間眠れなくなった事がある訳ですよ。しかし、眠れないというのは、もうこれは異常ですね。仕事に差し支えますね。

「これは、こんな事してたら、それこそノイローゼになる　昔は神経衰弱って言うていましたけど　そうなら大変だから止めとこう」と、それを捨てた訳です。

そして、仕事に専念し、生活や家庭の事をやっていた訳ですね。